

それから活動に入りました。メニューはカレーライスで、目標時間は2時間。各班で調理、かまど、飯ごうと役割を分担し、その担当ごとに考え方や指導のコツ、技術の習得などについてアドバイスをしたり、質疑応答など行いました。

その後、予定通りの時間にカレーライスは完成。食事をとりながら各担当で経験したことや学んだことを班内で共有し、さらに危険なところや注意しないといけないところはなかったか？などの話やその解決方法や事前の取り組みなど考えました。



北海道キャンプ協会 かわら版

2015. 8. 1

北海道キャンプ協会 発行

参加者の声

今回の野外炊飯講習では主にかまど作りについて学び、入ってきた空気を薪に当てるための井の字型を改良した組み方について教えていただきました。火をつけるには、火種、酸素、可燃物の三要素が必要ですが、この字型のかまどは一方からしか酸素が入らないため、このような工夫が必要だと学びました。このような具体的なテクニックの他にも、今後、様々な場面で自分で考えて動けるようなお話を科学的にわかりやすくしていただきました。今後の自分の実践に生かしていきたいです。

(報告者：おたる自然の村 二杉寿志)

《べんり》アイテム紹介

このコーナーは指導者の皆様が愛用している便利なアイテムや教材を紹介します。

NO.003【おりがみ工場】

簡単に折り紙を作るべんりアイテム！

ハサミやカッターを使わず、子どもでも安全に作ることができるのでとてもお勧めです。不要になったチラシや包装紙を使って好きなだけ折り紙遊びができます。

大きいサイズ（約15×15cm）と、小さいサイズ（約7.5×7.5cm）のおりがみを作ることが出来ます。



第1回都道府県キャンプ協会指導者研修会・日本キャンプ協会主催 BUC 事業参加報告

5月末に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第1回都道府県キャンプ協会指導者研修会及び、同時開催で行われた日本キャンプ協会主催のBUC事業「Camp Meeting in Japan 2015」に参加いたしました。

Camp Meeting では、キャンプインストラクター・ディレクターはもちろん、学生やボランティアなど研究・活動されている方々、キャンプに参加した子どもたちが全国から集いました。研究発表や実践報告がなされ、自分が初めて知るキャンプの魅力が広がっていました。特に地域が違うところでの実践報告は、新鮮で刺激を受けました。参加されたことのない北海道のみなさんに、是非来年参加していただいて、より地元での活動を盛り上げていければと思います。

研修会は、各都道府県キャンプ協会の事務局が集まりました。東北と同じブロックに北海道キャンプ協会は属しておりますが、他県キャンプ協会での行事や取り組みの工夫の情報を入手してまいりました！こういった情報交換で、北海道内のみならず、全国のキャンプ協会とつながっています。「北海道のキャンプっていいね！」となるよう、今後も魅力ある活動を目指します！

(公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会 村上彩奈)

会長就任のご挨拶「 原点に立ち返り 」

北海道キャンプ協会 会長 粥川道子

今期より霜觸寛会長のあとを受けてその任をつとめることになりました粥川道子です。

会員ならびに平素より協会活動にご理解をいただいております関係者の皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私はこれから奉仕させていただくにあたり荒井徹初代会長の次の言葉を大切にしたいと考えております。氏は設立期に「協会はキャンプ活動や野外活動のもつ本来的な意味やねらいを今一度確かめ合い、それを次の世代につなげていく作業を求められていると思います。おそらく道内のあちらこちらで同じような志をもちながら、それぞれの地域や職場で苦労している人たちがいるのではないかと。こつこつと経験を積み重ね、子どもたちのために努力を続けている人たちが、横のつながりをつくり、いろいろな経験やノウハウや情報を交換し合い、共通の財産として確かなものとする事ができるよう願ってやみません」と述べられました。会員同士のつながりをつくり、互いに研鑽を積み、共通の財産を築き、組織教育キャンプの意義を次の世代につなげていくことは、協会が設立時から掲げる変わらない使命の一つといえるでしょう。他方、設立からの23年間でキャンプを取り巻く社会は変化してきました。今やキャンプや野外活動は、子どもたちだけのものではなくあらゆる世代がその対象となりました。当然、組織教育キャンプはその社会的意義を果たすため、キャンプのねらいはその時々での社会的課題に沿う形で様ざま変化してきました。また、環境教育や冒険教育を専門的に学び、キャンプや野外活動を生業とする指導者による企画が道内でも数多くみられるようになりました。現在の協会の状況に目を転じると、会員の中には組織教育キャンプ指導の専門職の方もおられますが、多くはボランティアのキャンプ指導者として地域の活動に参加しておられる方、ご自身や家族、仲間とのキャンプを純粋に楽しんでおられる方がその多くをしめています。また、世代は青年期から後期高齢者まで、住居も全道各地に広がっています。このように会員の皆さまの指導歴や環境は実に多岐にわたりますが、組織教育キャンプの理念や技術を学び、キャンプがもつ本来的な意義に共感した仲間であることに変わりありません。

冒頭でも述べましたが、私たちは時々協会の原点に立ち返り、「何のためにキャンプをするのか」を問いなおし、個々の経験や情報を交換し合い、共通の財産を築いていきたいものです。例えば「北海道の会員による北海道民と自然のための Camp Meeting in Hokkaido 」そんな楽しい語らいや体験の場などはいかがでしょう。そのためにはこれまで以上に事務局や指導者養成、啓発活動・会員交流、広報の各部署の地道な努力が不可欠です。幸い各部署には若い世代が逞しく育っています。会員の皆さまには、広報誌や事務局ホームページを通じて多様な機会がご案内できるよう努めてまいります。これらをご活用いただき、皆さまのより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

北海道キャンプ協会

〒047-0155 小樽市望洋台2-14-1 望洋ビル内 担当：安原、岩崎

お問い合わせ TEL 0134(52)3240 FAX 0134(51)5667

E-mail: office@hokkaidocamp.com URL: <http://www.hokkaidocamp.com/index>

指導者養成担当より

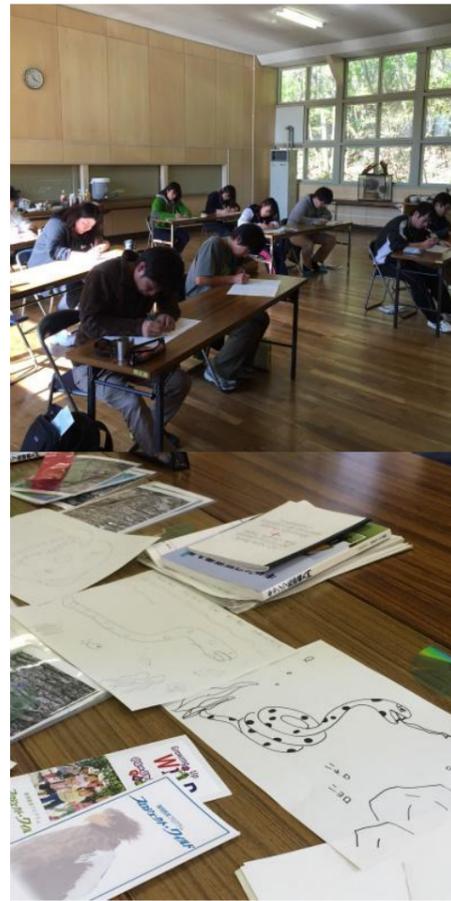
「平成27年度キャンプインストラクター養成講習会が行われました！」

5月15日（金）から17日（日）の2泊3日で北海道キャンプ協会主催「キャンプインストラクター養成講習会」が行われました。会場はこれまで同様、札幌市南区にある滝野自然学園。道内外から合計11名の方にご参加いただきました。野外教育や施設の指導者、青少年活動の指導者、指導者の道へ進まれる予定の方、登山のプロフェッショナル、自然を求めて北海道へ移住された方など様々なバックボーンを持った方々が集まり、講習会は和気あいあいとした雰囲気の中で進んでいきました。講義や実技から学ぶだけではなく、新たにできる人とのつながりもこの講習会の魅力のひとつです。

講習会当日は天候にも恵まれ、すべて予定通りにプログラムを進めることができました。実技研修においては、懐かしの三角テントが登場。試行錯誤しながら設営研修を行いましたが、さすがに経験豊富な方が多いためか、ノーヒントでも見事に設営完了。初めての三角テント設営という方もいましたが、「懐かしい～」という声が多く聞こえた実技研修になりました。

ご協力いただいた講師、運営スタッフの皆様、ご協力ありがとうございました。（この講習会の運営はすべて会員によるボランティアで行われています）新たにインストラクター資格を取得し、北海道キャンプ協会の一員になられた11名の皆様。おめでとうございます。皆様のご活躍を心より期待しております。一緒に北海道の活動を盛り上げましょう！

（報告者：公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会 山田憲克）



キャンプインストラクター合格おめでとう！！

東 優希 黒田 真 古谷 文奈 松田 康佑 五十嵐あかり 石井 陽太 尾形明日翔
加藤 駿作 金子 昌平 川上 賢人 川原田 慎 木村 雄弥 小杉 航輝 小林 翔太
田島 萌音 高橋 和輝 手小 太智 富永 望海 早坂 恭亮 前原 脩佑 矢部 将也
吉野 滉平 和田祐太郎 林 秀昭 星野祐紀子 渡邊 沙千 古谷 正臣 生田 麻衣
皆上 綾子 高柳 昌央 渡邊 桃子 大森 英邦 目代宗太郎

（敬称略 順不同）

新たに33名の方がキャンプインストラクター試験に合格し、北海道キャンプ協会の一員となりました☆皆さんと協力して、北海道を盛り上げていきましょう！

啓発活動・会員交流担当より

事業報告

キャンプ技術を学び役立てよう♪「レクリエーションの技を学ぶ」

実施日：2015年3月15日（日）会場：ネイバル深川

簡単な自己紹介を済ませ、アイスブレイク的なゲームをいくつか紹介した後、指遊びやクイズ、絵描き歌など使える状況を説明しながら様々な活動を行いました。昼食後は、参加者の交流時間をとりつつ、レクダンスやニュースポーツの中からネットネットゲームなどを行いました。

参加者は少なかったですが、人数が少ないことでひとつひとつの活動をじっくり体験することができ、参加者同士も話しやすい雰囲気の中で活動できたので、参加者の皆さんはすごく満足していただけたようでした。今回は、北海道全域の会員の皆さんが参加しやすいよう道央での開催としましたが、残念ながら参加者が少ない状況でした。今後は、広報の仕方をいろいろ考えながら活動を続け、BUCの浸透を図りたいと思います。

受講者の声

- ・ニュースポーツは思っていたよりも難しく、最初はなかなかボールを飛ばすことが出来なかったのですが、段々できるようになってくるとすごく楽しくて時間も忘れて活動してしまいました。
- ・ダンスなんて何年ぶりにしたかわからないけど、午前中にしっかりと交流できたのですごく楽しく踊れました。汗をかくくらいに楽しめたのは午前中のレクリエーションのおかげなのかなと思います。



キャンプ技術を学び役立てよう♪「宿泊できるイグルーを作ろう♪」

実施日：2015年3月28日（日）会場：おたる自然の村

簡単な自己紹介を済ませた後、イグルー作りの座学をしながらどうやって作るのかをイメージしてもらい、その後、屋外に出てイグルー作りに取り掛かりました。今回は積雪を利用して作成したため、掘り込みや切り出し、積み上げ、成型など多くの仕事をみんなで協力しながら作成していきました。途中、イグルー作りのコツやプログラムの広げ方、装備や道具の選択、活動する人数、宿泊する時のポイントなど指導のポイントについて説明を加えたことで、参加した皆さんにとって学びの多い体験になったのではないかと感じました。

また、休憩の時間には、むかしのキャンプの話やそれぞれの活動の報告を行うなど会員同士の交流を深める時間を設けたことで、会員同士の絆を強める楽しいBUCになりました。

受講者の声

- ・前回作った時は何となくだったので、今回ひとつひとつ丁寧な説明を受け、なぜそうするのか理由がわかったのととても面白かったです。理屈がわかればもっともっと楽しめそうです！
- ・雪を活用した住居空間づくりはとても楽しかったです。子どもたちとともに考え工夫することの大切さを学ぶことが出来ました。



野外炊事の基礎を学ぶ

実施日：2015年4月19日（日）会場：北海道教育大学教育学部 釧路校

理事のあいさつをスタートに、野外炊事のイメージの共有や実際の学校での野外炊事の事例など紹介し、その後、学校の宿泊研修での班編成のように5～6人のグループになって活動していただきました。小・中学校で行われる炊事指導と同じように、講師から飯ごうや火、調理について全体指導を行い、